

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I A	OTMa-120601-2	20	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計40名で計3テーマを設定し1つの調査票を作成した。以下にAクラス「真面目(バカ)とは何か」グループの概要を述べる
2. 調査の内容/概要：真面目さとはそもそも何であるのか、学生は真面目さをどう認識しているのか、他者への評価と自己評価は一致しているのか、真面目さとバカっぽさの違いや境界はどこにあるのか、といった点を探索的に調査分析した。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生 計559名、サンプリング：全数調査 (1~3年ゼミ28クラスを通じた配布・回収)、標本数 (母集団から実習参加者を差し引いた人数)：520名
4. 主な調査項目：性別、行動に対する真面目さのイメージ、自分の普段の行動、真面目という語のイメージ、性格、他者の迷惑行動やファッションへの印象など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。したがって、自記式、集合調査である (ただし、一部回収箱を利用した留置法を併用)。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2012年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計40名 (うちAクラス20名)
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数327、有効回収数：319、配布数に対する有効回収率：97.6% (前回比+4.7%)

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、相関分析が中心)
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①学年、性別によって真面目な行動には差が出る、②真面目さには、「主体的行動」「ハプニング回避行動」「マニュアル行動」といった異なる側面がある、③他者の不真面目さやバカっぽさに対する厳しい態度は、必ずしも自身の真面目さや自信から来るものではない。等。
10. 報告書刊行の予定と概要：2013年3月に『2012年度 社会調査実習報告書』刊行。Aクラスからは、真面目さに関する論文13本を掲載。

- <記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。
3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。